

令和 2 年度公共交通会議事務局の活動報告について

1 検討内容

Nーバス評価指標の検討

これまでのNーバスの見直しについて、評価指標が現在まで数値目標の達成度等の定量的な指標のみであったが、サービス向上のため、運行目的を果たしているかどうか等の定性的な指標も併せて検討をしていくことが重要であるため、1回の議論を行った。

2 検討内容及び方向性

Nーバスの見直し基準の検討について

項目	議論の方向性
見直し基準検討 までの背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在まで、Nーバスは利用者数等の定量的な数値目標の達成度のみで評価しており、運行目的を果たしているかというような定性的な評価をしていなかったため、サービス面を向上させることによって公共交通利用者を増やすため、今後は定性的な評価も含めた指標を設定する。国も複数の指標で評価する方針へと変わりつつある。 ・ Nーバス路線再編の時期や必要性について明確な根拠がなく、路線再編が必要かどうか判断する基準が必要となる。 ・ 指標を使つての再編決定までは、毎年定量的なデータと定性的なアンケート結果の検証や評価を行い、再編の必要性を検討していく。
Nーバス路線再編について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジブリパークが開園することにより今後さらに道路が混雑することが予想されるため、路線再編を行う可能性が高い。 ・ 5年に1回の路線再編は、既得権をリセットさせる意味でも良い。
見直し基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回のNーバス路線再編は令和8年度を予定しているが、公共交通網形成計画の見直しがあるため、令和5年度までにある程度指標を決定しておく必要がある。

Nーバスの見直し基準の検討（案）

	傾向	対応	スパン
パターン1	基準値も上回り増加傾向	現状維持	全体見直し（概ね5年）の際に、見直しを行うことを基本とする。
パターン2	基準値は下回っているが増加傾向	経過観察	
パターン3	基準値は上回っているが減少傾向	経過観察	
パターン4	基準値も下回り減少傾向	サービスの見直し	随時対応

評価スケジュール（案）

年度	評価	指標
R 3	・見直し路線で運行開始後、1年間は利用の定着期間とみなし、R 3の定量評価となりうる数値の把握	定量指標となる候補数値の把握
R 4	<ul style="list-style-type: none"> ・上期にR 3で把握した定量評価の数値を用いて前年度実績と比較し、パターン4に該当するか確認。パターン4に該当する路線の定性指標の候補を検討 ・下期に、把握する定性指標の調査を、次期公共交通計画のアンケートと同時に実施 ・把握した定性指標を踏まえ、定量・定性指標を決定 	定性指標の把握 （次期交通計画のアンケートと同時に把握） 定量・定性指標決定
R 5	<ul style="list-style-type: none"> ・R 3、R 4の定量指標の前年度比を比較し、一次評価を実施。併せて、定性指標の把握を実施 ・その傾向がパターン4に該当する場合、定量指標の評価結果を周知・公表し、利用促進等を図る。 	定量指標での評価 定性指標の把握
R 6	<ul style="list-style-type: none"> ・該当路線について経過観察をしつつ、定性評価を実施し、定量評価の要因を把握 ・対応策及び見直しの検討を同時に実施 	定性指標による分析
R 7	<ul style="list-style-type: none"> ・経過観察後も改善がみられない路線について、見直し計画を具体化し、路線再編に向けて本格準備 	
R 8	<ul style="list-style-type: none"> ・見直し計画での運行を開始 	